

研究報告

これからの保育学科について

－ N J 3 の確認・なわてジェンヌの名称検討を中心に－

金川 朋子* 森 麻 希 子* 合 田 誠* 長 谷 秀 揮* 山 田 秀 江*
鍛 治 谷 静* 阪 野 学* 香 月 欣 浩* 木 村 美 香* 千 田 耕 太 郎*

Report on the Department of Early Childhood Education in the Future -Focusing on confirmation of NJ3 and considering the name of Nawate-Jienne-

Tomoko Kanagawa, Makiko Mori, Makoto Goda, Hideki Hase, Hidemi Yamada,
Shizuka Kajiya, Manabu Sakano, Yohshihiro Katuki, Mika Kimura, Kohtarō Senda,

2022年度より、保育学科は女子単独の学科から男女共学の学科になる。保育学科では、建学の精神、教育理念に基づき、その具現化として「なわてジェンヌ」、「N J 3」を合言葉として、多くの願い、思いを込めて教育を行ってきたが、男女共学に際して、「『ジェンヌ』という言葉を見直す必要があるのではないか」という学科長の提案から検討が始まった。

本報告は、男女共学となる2022年度に向けて、保育学科の教員が検討してきたこと（①保育学科で大切にしてきたこと②N J 3について③なわてジェンヌについて④今後の保育学科）を報告する。

Key words: 保育学科 男女共学 なわてジェンヌ N J 3 なわたんスタイル

I はじめに

2022年度より、保育学科は大きな転換期を迎えることとなる。これまでの女子学生だけの学科から、男子学生を受け入れ、男女共学の学科となる。男子学生の新たな受け入れによる、「なわたん・ホイク」は、まさしく歴史的なターニングポイントであり、それは決して過剰でおおげさな表現ではなく、現代社会と保育・幼児教育を俯瞰することによりおのずと見えてくる、本学の保育学科の進化のメルクマールと呼ぶべきものだからである。

現代において社会が指向する方向性や状況を端的に顕わすキーワードの一つに多様性（ダイバーシティ）がある。また、男女共同参画が、今や社会のあらゆる場面でスタンダードになりつつある。保育・幼児教育において、さらに広くは子育てにおいても、男女両性の協力協働が、基本及び

基準になることは明々白々といえる。

保育学科では、「なわてジェンヌ」、「N J 3」を合言葉として、多くの願い、思いをもって教育を行ってきた。来年度から始まる男女共学に際して、「『ジェンヌ』という言葉を見直す必要があるのではないか」という学科長の提案から検討が始まった。

本報告では、男女共学になる2022年度に向けて、保育学科の教員が検討してきたことを報告する。報告内容は、以下4点である。

- ・保育学科で大切にしてきたこと
- ・N J 3について
- ・なわてジェンヌについて
- ・今後の保育学科について

II 「保育学科で大切にしてきたこと」

保育学科では、平成24年度 全国保育士養成セミナー、分科会D 学生支援8・キャリア・サポート（就業・進路支援）において、キャリア教育・職業教育の取組を発表した。その発表に基づき、

* 四條畷学園短期大学 保育学科

保育学科で大切にしてきたことをまとめる。

1. 「キャリア教育・職業教育」の必要性について

中央教育審議会が2011（平成23）年1月31日の答申にある「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の冒頭で学校から社会・職業への移行や社会人・職業人としての自立の課題には、社会全体を通じた構造的な問題が存在していると指摘している。これらの課題を克服するためには「学校教育」の重要性を説き、その中でも「キャリア教育・職業教育」の充実を述べている。学校教育法（2007年改正）第21条 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと、大学設置基準・短大設置基準（2010年改正 2011年4月施行）大学設置基準第42条の2（短大設置基準第35条の2も同様）「大学は、当該大学学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの能力を発揮し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるように、大学の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」と示され、職業指導（キャリア・ガイダンス）の実施が制度化された。

保育学科においても、実習や就職などの局面でキャリア教育の必要性を問われる課題に直面し、

新たな指導・教育の方法が必要であるとの認識が学科内で共有された。当時の学生について、「従来の学生は入学当初より明確な目的意識（保育者になるべき取り組み）を有しており、専門的知識と技術を習得させるという養成校としての責務を淡々と勤めあげ、就職へと結びつけてきたが、近年その学生像が崩れはじめていることを実感せざるを得ない状況が散見されるようになってきた」と述べており、この状況を打開するために、「キャリア教育・職業教育」として2つの試み、「保育者キャリア支援演習A・B」(正課授業)と「ステージアップセミナー」(正課授業外)に取り組んできた。

2. 正課：キャリア支援演習A・B

2011年度より「基礎科目」の中に卒業必修として1年次に「キャリア支援演習A・B」を設置した。この科目のキャリア形成に必要と考える4領域を、前・後期計4人の専任教員がオムニバス方式で分担し、約40人の少人数クラスで授業をすすめていた。4領域とは以下の通りである。なお、この科目は、2005年度から取り組んできた「保育者養成基礎演習」の取組を発展させたものである。

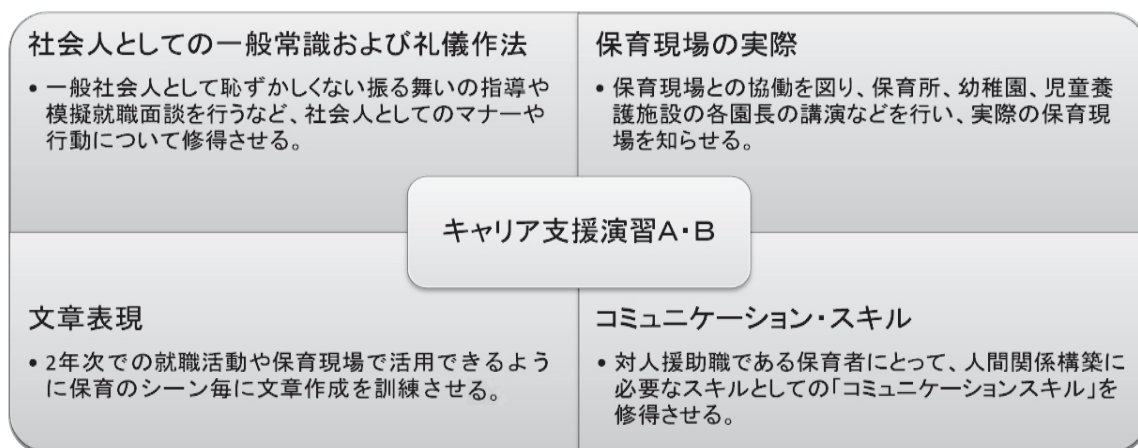


図-1 キャリア支援演習A・B4領域

3. 正課外：ステージアップセミナー

正課外でも、キャリア支援の取り組みを2007（平成19）年度より行っている。当初は基礎学力の向上が目的であったが、学生・教員ともに満足のいく手応えが感じられず、翌年より「われわれはどのような保育者を育てたいと考えているのか」との原点に立ち戻り議論を重ねてきた。

「報恩感謝」を建学の精神とする本学では、「人をつくる」すなわち人格の陶冶を教育理念としている。学科においても、保育知識・技術のみに優れた保育者ではなく、礼儀（マナー）や教養も身につけた保育者養成を目指そうと目標が具体的になった。目標とする「保育者像」を「なわてジェンヌ」と名づけ、「めざせ！なわてジェンヌ」を合い言葉に日々学生の意識向上に努めてきた。（なわ

てジェンヌについては、後述する）

「ステージアップセミナー」は、1年次通年合計24回の多様な講座で構成されていた。週に一度の「ステージアップセミナー」の時間は、学科専任教員全員の一致した思いを学生に伝える場でもあり、学生もそれぞれ「自分の目標」に立ち返ることのできる時間として意義あるものであった。いわば、「ステージアップセミナー」は、学生生活全般に波及していく発信基地であるとの位置づけであった。正課外にも関わらず学生の出席率は高く受講態度も概ね熱心であった。当時の学生の授業に対する評価を表-1、図-2に示す。ステージアップセミナーで取り組んできた内容一覧を、表-2に示す。

表-1 学生による授業内容評価

	役に立った					役に立たなかった
	5	4	3	2	1	
美しいスタイル	34.3	20.9	23.9	11.9	9	
大人力(教養)	34.3	26.9	28.4	7.5	3	
絵本作り	40.3	28.4	22.4	3	6	
美しい所作	43.3	23.9	28.4	3	1.5	
グローブシアター	49.3	20.9	25.4	4.5	0	
手紙	52.2	19.4	25.4	1.5	1.5	

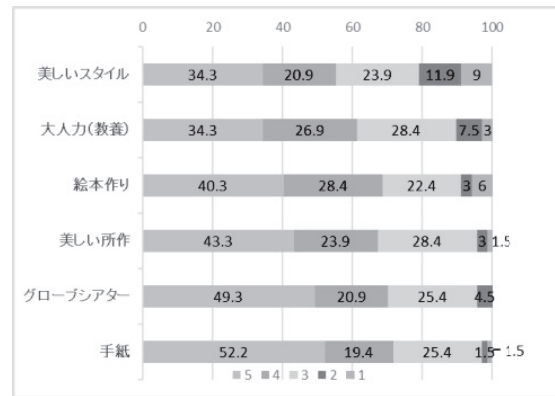


図-2 学生による授業内容評価

表-2 ステージアップセミナーで取り組んできた内容及び担当者一覧

マナー	保育技術	教養	講演	学外講師
おはしの使い方	絵本づくり	スピーチコンテスト	パフォーマンス	卒業生
CAのお話し	手作りおもちゃ	100マス計算	挨拶	幼児活動研究室 大阪支部長 榎本幸宏
茶道	パネルシアター	実習で使う漢字テスト	目指せなわてジェンヌ	瑞池学園幼稚園 園長 梶園長
美しいしぐさ	グローブシアター	手紙	絵本を子どもたちに	学外講師
美しいスタイル	けん玉・はし	公務員講座	楽しい保育技術のいろいろ	卒業生
ことば美人	作って遊ぼう	自然科学	なわてジェンヌをつなぐ	政谷富美子
身だしなみ・メイク	たのしいリトミック	人文科学	後輩たちへのメッセージ	四條畷市立えせび幼稚園 園長 河野園長
きれいになるメイクカ	紙しばいづくり	社会科学	報恩感謝とは	本学教員
	街頭紙しばいを楽しもう	大人力をつけよう	すばらしい保育の世界	中川ひろたか
	美しい環境づくりABC	心理ゲーム	ぼくの作った歌と絵本	中川ひろたか
	基本的しつけのABC	パルーン	保育を語る	学外講師
	美しい文字のABC	ことわざ・四字熟語	一流になる	四條畷学園小学校 校長 北田校長
		国語常識テスト	大好きな子どもたち	卒業生
		SPIテスト	楽しい保育技術	卒業生
		文章の書き方	こどもたちGO!	長谷川義史(特任教授)
		公務員試験	世界の学校	八木早希(フリーアナウンサー)
		大人カテスト	後輩たちへのメッセージ	みおつくし福祉会六反南保育園園長 隅野園長
			夢にむかって♪	八木早希(フリーアナウンサー)
			後輩達へのメッセージ	卒業生

4. 教員の協働

「ステージアップセミナー」の講座内容等の企画は、就職委員会が行い、毎回の運営・進行は専任教員で分担し行っているため、教員全員が問題意識を共有し目標を同じくする必要があった。

キャリア支援といっても、「キャリアとは何か」「キャリア形成に必要なスキルとは何か」等に関して教員全員が一致したイメージを持っているわけではなく、学科会議において互いに率直な意見を出し合い、そのすり合わせに努めてきた。

また、「ステージアップセミナー」が始まった当初は、就職委員会の取り組みという色合いが濃かったが、学科会議で議論し5年間積み上げてきたことで、保育学科の全教員が「なわてジェンヌ」を育てたいという熱い思いを共有し、協力して取り組む中で、組織的に機能し始めた経緯があった。図-3は、教員の協働の関係を示すイメージ図である。

以下、図-4は、保育学科の教育理念、教育目標（当時）、保育者キャリアアップ支援演習、ステージアップセミナーの関連を示す図として、報告されている。

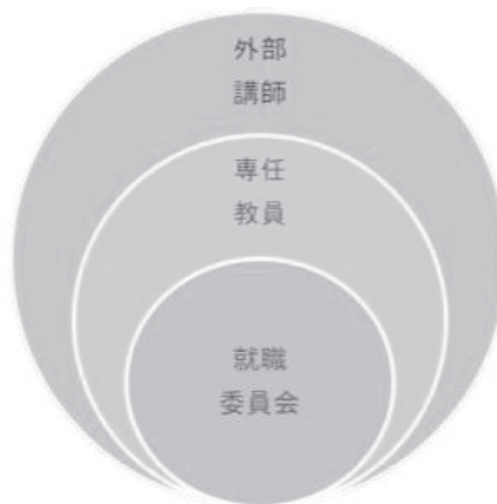


図-3 教員協働のイメージ

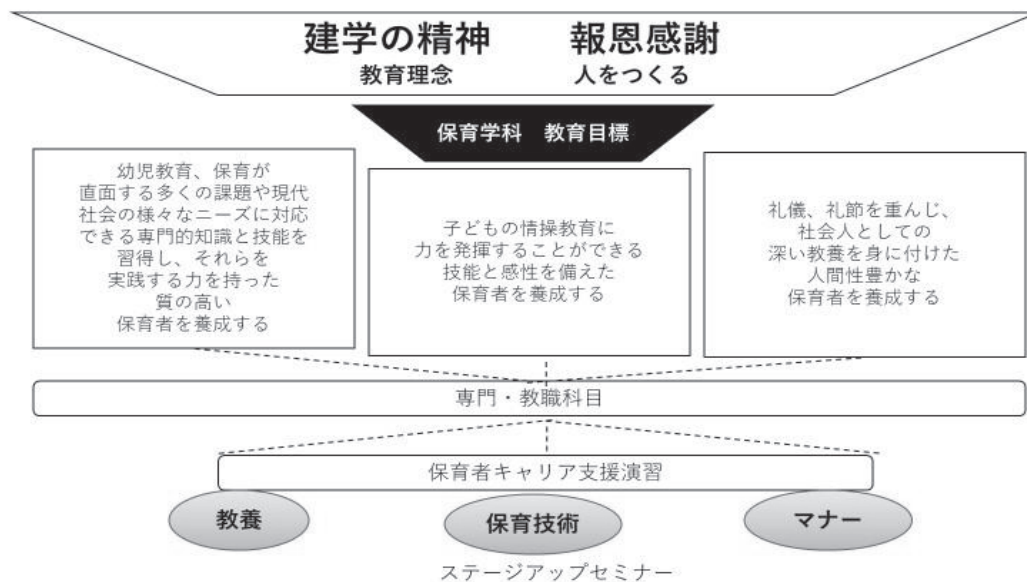


図-4 保育学科の教育理念、教育目標、保育者キャリアアップ支援演習、ステージアップセミナーの関連図

Ⅲ N J 3について

1. N J 3について

キャリア支援演習 A・B、ステージアップセミナーに取り組んでいる同時期に、「素敵な保育者を目指すためには、日々振り返ることが大切だ」と

いう考えに基づき、25項目のチェックリストを作成した。活用方法としては、25項目（表-3）の中から学生が自分で1～3つ選び、毎週達成できたかどうか、自己チェックを行ってきっていた。

表-3 N J 2 5

1 友だちに笑顔で元気に挨拶している	11 足をそろえて座っている	21 朝御飯を食べている
2 教員に笑顔で元気に挨拶している	12 足でなく手で物を動かしている	22 睡眠をしっかりとっている
3 学内であった方みんなに挨拶している	13 座って食事している	23 遊びと勉強のバランスを考えている
4 女性らしい言葉を使っている	14 机上や床に座らないようにしている	24 時間厳守を心掛けている
5 人と話すときは、笑顔を心がけている	15 玄関などで靴を揃えて上がっている	25 私語、居眠りをせずに授業をうけている
6 敬語、丁寧語を使っている	16 お箸を正しく持つことができている	
7 友達にお礼を丁寧に言っている	17 鉛筆を正しく持つことができている	
8 ゴミの始末をしている	18 清潔な服選び、靴選びを心がけている	
9 借りたものをもとに戻している	19 ひかえめなメイクを心がけている	
10 よい姿勢を心がけている	20 メイクをする時は化粧室を利用している	

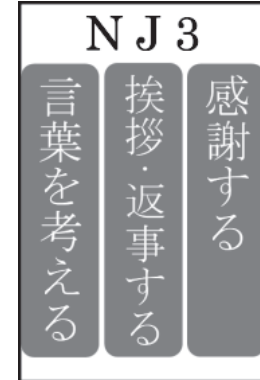


図-5 N J 3

取り組んでいく中で、25項目は多すぎるのではないかという意見から、教員で話し合いを繰り返し検討し、『感謝する、挨拶をする、言葉を考える』の3項目にまとめた。その後、「返事をする」を加え、現在のN J 3（なわてジェンヌ3箇条）（図-5）となった。

学生への啓発をねらい、ポスター（図-5）を教室及び各教員の研究室前等に掲示している。

N J 3の活用については、ステージアップセミナーで学生がチェックと振り返りを行った後は、担任が回収し、学生へのコメントを記入し、指導に活かしてきた。前期終了時には「自分が成長したかどうか」の確認を行った結果、半数以上の学生が「すごく成長した」という回答を得ることができた。あくまでも自己評価に対する回答であるが、学生自身の自己肯定感を高めることができたと考える。

なお、今年度も、N J手帳に形態を少し変化させ、継続して学生指導に活用している。

2. N J 3の再検討・再確認について

後述するが、現在の専任10人のうち、N J 3の導入時を知っている教員は半数以下であり、どのような経緯でN J 3が導入されたのか、3つの言葉に教員の思いが込められているのかを、十分には継承できていないのが、現状であり、課題であると考え、今回、概念整理を行った。検討は、令

和3年4月～9月の学科会議で継続的に実施した。検討は、①N J 3の3つの言葉に対するイメージを確認する、②N J 3の3つの言葉に込める教員の思いをまとめる、③N J 3全体のまとめ、という3つの段階である。

①、②では、3つの言葉に対する教員のイメージ、思いを発表し合い、共通理解を図り、③において概念整理（図-6）を行った。以下、各教員から発表された内容（表-4）を記述する。

表-4 各教員が考えたNJ3のイメージ

<p>【感謝する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の「建学の精神」にある「報恩・感謝」がこの言葉の根底にあります。・ 建学の精神「報恩感謝」を日ごろから学生に伝え、実践させたい。 ・ 建学の精神にもあるように母親への感謝の念はもとより、自分を支えてくれた多くの人への感謝することができ、またその支えてくれた人の恩に報いるという考え方ができること ・ 生まれてからこれまで、自分を気にかけ、関わり育ててくれたすべての人々との「縁」に感謝する。 ・ 勉強ができること、指導を受けられること、自分の進みたい道に向かって努力できることを感謝する。 ・ 社会に対し自分にできることは何か考え、小さな一歩でも行動に表していく。 ・ 多様な家庭背景をもつ学生が少なくない。感謝の対象として「親」「家族」といった言葉の使用には配慮が必要かも ・ 私は学生に伝える際には「人は一人では生きていけない」を前提として話を切り出します。今日に至るまでの歩みの中には保護者や親戚、血縁等の周辺から、友人、知人、先生等々の「お陰」である気持ちを必ずもつようにとの説明をしています。 ・ 口だけではなく以下の2箇条にも共通していえることは、まず教員からの「実践、です。・ 背中を見せて育てる」が肝要かと思えます。
<p>【言葉を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口から出る言葉は人となり（その人自身）を表すもの。言葉を考えるとは自分を育てることである。 ・ なわてジェンヌは、人としての品性や品格を意識して言葉を大切にしたい。・ 言葉は、人の品性や品格が、反映され表わされる。 ・ 人の話を聞こう。良い文章を読もう。いろんな人と対話しよう。日々の積み重ねで言葉は磨かれる。 ・ 子どもたちに語りかける言葉、聞かせたい言葉の引き出しを学生のうちにいっぱいしておこう。 ・ 保育者（なわてジェンヌ）は、子どもと保護者にかかわる専門家（のたまご）であるので、寄り添い&支え&優しく励ます等につながる「生かす」言葉を大事にして欲しいと考えます。 ・ 言葉遣いについても、同様に実習や就活を例に説明します。特に、就活での面接場面について過去の先輩の失敗例を示すことにより、言葉遣いの重要性を語らせてもらっています。・ 相手の気持ちを考える・言葉を知る 学ぶ 増やす ・ TP0に合った言葉遣いをわかっていない学生がいるように思う。敬語の使い方を教え、練習するような授業（機会）を増やす必要があるのかもしれない。 ・ コミュニケーションの基本、初めの第1歩が「挨拶」。ゆえに非常に大切だと考えます。 ・ 返事も同様だと思います。・ 話し言葉と 書き言葉の区別 ・ 感受性の強い人ほど、「言葉を考える」ことはできるのかと思います。 ・ 人とのコミュニケーションを図り自分の思いを伝えるには自分の独善的な解釈による言葉ではその真意は伝わらない場合が多くある。相手に自分の考えていることを理解してもらうためにはどのような言葉（共通言語）で伝えることで適切なのか考慮しなければならない。そう云ういう意味でよく発する言葉を吟味する必要がある。 ・ 言葉は話す相手によって変えるだけでなく、TP0によっても考慮することが大切であると考えます。 ・ マザーテレサの言葉を読んで考えて欲しい。『思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから。』・ 思考は「感謝する」、言葉は「言葉を考える」、行動は、「マナー」にあたると考えます。
<p>【挨拶・返事する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶も返事も、他者への配慮（思いやり）を示すもの。自分も相手も気持ちよい挨拶・返事を心掛ける。 ・ 挨拶と感謝は接続されていると考えています。・ よく言われるように、初対面の方が第一印象抱く、大きな要因は、「挨拶」だと思っています。 ・ 普段挨拶をしていることで、感謝の気持ちを伝えやすいこともあるかと思えます。・ 自分から進んで挨拶・笑顔とともに ・ 「自分から」「笑顔で」「はきはきとした」挨拶・返事を心掛ける。・ 返事するも同様に、実習や就活での事例をあげて説明します。 ・ 形（言葉、動き、態度、・・・）からまず入って、次第に心をこめる（相手を想う、大切に作る、尊重する・・・）ようになれば良いのではないかと考えます。・ 感謝と同様に、学生へ説明する際には実習や就職活動を事例に「挨拶」することを強調します。 ・ 挨拶は誰よりも先に元気に行う。・ 門衛の方に、立ち止まって元気に挨拶をする。・ はい と 気持ちよく大きな声で ・ 電話の応答では、元気に「おはようございます〇〇です」と言う。・ お礼は忘れずにその日のうちにメールで、次の日は直接会ってお礼を伝える。 ・ あまり欲を出さずに、1年間で一つ、例えば、授業初めの「宜しくお願いします」あるいは、「おはようございます」「さようなら」のような挨拶を、みんなが出来るようになるまで、教員全員が頑張る。 ・ 挨拶、感謝の言葉が、目前の実習や就職試験、将来の勤務に絶対必要であることを、教職員全員で常日頃から話し、学生に刷り込んでいく。 ・ やみくもに、やらされている挨拶では意味がないので、教員側、大人が自然な気持ちのいい挨拶をすることで、学生たちが自然に行動できるようにしていきたいです。・ 他の人の様々な思いを誤解せず真意を押し量るためには積極的にコミュニケーションをとることが大切。 ・ その第一歩となるのが挨拶や返事である。・ 挨拶や返事をきっかけとしてコミュニケーションを図り互いの真意を伝えあい相互理解を図る。

それぞれに発表したのちに、学生に伝えたいこと、教員がすべきこと、いつの場面で、どんな方法で学生に伝えられるか等、討議を繰り返す中で、現段階でのNJ3の共通理解を図ることができた。2021年9月にまとめたものが図-6である。

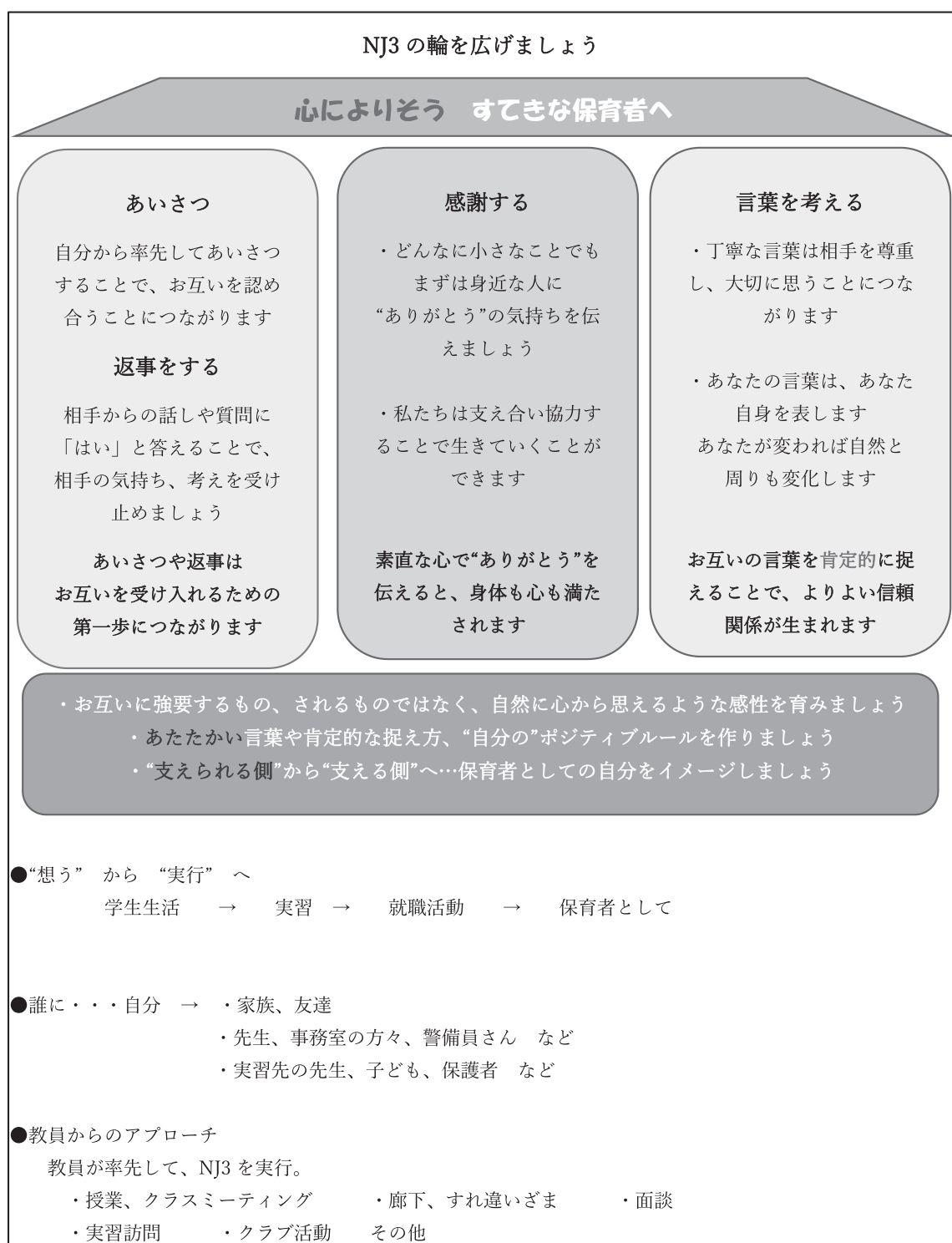


図-6 NJ3概念図 (2021年9月)

3. NJ3の取組について

NJ3の取組は、NJ3の自己評価、1週間の振り返りコメントの2点について、保育学科1年生はもともと「ステージアップセミナー」を中心に学生指導を行っていた。先述の通り、ステージアップセミナーはNJ3だけでなく、保育技術を高めるために様々な講師を招き「なわてジェンヌ」(詳細は次項に記述)として成長できるように実施していたのだが、2019年度以降はカリキュラムの見直しにより、その時間が無くなったため「保育技術の学び」「NJ3」の取り組みを新たにすることになった。

「NJ3」の新たな取り組みとして、「なわてジェンヌ手帖」と「保育のソムリエノート」を並行して活用することになった。火曜日＝「なわて

ジェンヌ」の日とし、NJ3を実施出来ているか、学生が10点満点で自己評価し、1週間の振り返りコメントを記入。火曜日授業を担当する専任教員の協力を得ながら、学生の自発的な取り組みを狙う。

2021年度は、前期は保育実習指導Ⅰ、後期は教育実習指導Ⅰで「なわてジェンヌ手帖」を取り扱い、授業内評価にも含めた。NJ3の自己評価を3段階評価(○△×)、一週間の振り返りコメントだけでなく、次週の目標を記入するという方法へと変更した。学生が自身の振り返りを出来ているかという観点を重要視し、ねらい・目標の設定を習慣化することで、実習へと繋がるように年間を通して指導することとなった。

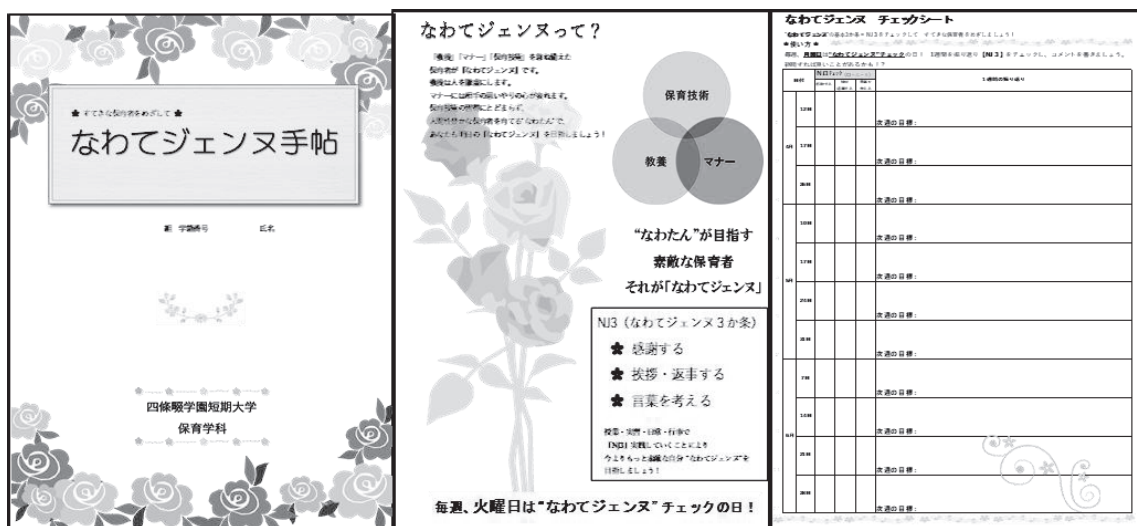


図-7 なわてジェンヌ手帖

Ⅳ なわてジェンヌの呼称の検討について

1. なわてジェンヌの呼称について

なわてジェンヌは、本学科で学生が目指す保育者像、女性像のイメージ像として、学生と教員の間で使用、活用されている。なわてジェンヌの提案者である香月准教授によると、「なんとなく上を目指すのではなく、目標となる理想像の言語化が必要だと考えました。そんな時、素敵な女性というフレーズから宝塚歌劇団が頭に浮かびました。さらに宝塚音楽学校の入学生募集ポスターを目にした時に、このようなイメージ写真を掲げ、みんなで理想像を目指すのが良いのではないかと考えました。またそのイメージを言語化すべきだと考え、「タカラジェンヌ」と四條畷の「なわて」を合体させ、「なわてジェンヌ」が生まれました。」とい

う思いから始まった、教員の学生への思いを込めた造語である。

2. 「なわてジェンヌ」の取組

「なわてジェンヌ」の取組は、授業内での啓発を実施しており、とりわけ実習に関する授業や、キャリアと教養、就職講座等を通じて、学生が意識を持つことができるように指導している。

入学当初からも下記のようにガイダンスや行事を通じて、「なわてジェンヌ」としての意識が育まれるように取り組みを行っている。

- ・新入生ガイダンスにおいて学科長より「なわてジェンヌ」の説明。
- ・「ユニバーサルマナー検定3級」を入学生全員が受講。
- ・クラスミーティングでは学園の理念であり、

なわてジェンヌ教育の根底を支える「報恩感謝」について説明。分離礼の実施、授業内で徹底。

- ・なわてジェンヌ、N J 3（なわてジェンヌ3か条）のポスターを利用し啓発を実施
- ・「なわてジェンヌ手帖」について、入学生の歓迎会であるウェルカムデー（4月10日）での説明を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度はウェルカムデーが延期となったため、保育実習指導Ⅰの中で授業担当が説明。

3. 「なわてジェンヌ」から、「なわたんスタイル」へ

2022年度より男女共学となることから、「なわてジェンヌ」の呼称と「N J 3」の概念整理について学科会議で数カ月にわたり検討が行われた。新

呼称について、専任教員でブレインストーミングを行い、十数個の名称が候補にあがった。話し合う中で、本学の愛称+マスケットキャラクター名称である「なわたん」を名前に入れたい、さまざまな背景を持つ学生が増えているため多様性を認められるようにしたい、教員と学生が一丸となって作りあげられるよう学生からも「新呼称」を募集してはどうか等、さまざまな意見が上がった。

この会議を受け、新呼称について教員だけでなく学生からも広く意見を募集し、改めて保育学科会議において検討・決定することになった。当時、オンライン授業下であったため、2年生は卒業ゼミ、1年生は子ども文化Ⅰ（音楽）のZOOM授業を通じて「なわてジェンヌ」について改めて説明を行い、新呼称について任意の聞き取りを実施した。

学生からの提案について（抜粋）(表-5)

表-5 「なわてジェンヌ」新呼称についての学生・教員からの案（抜粋）

新呼称(案)	
nawate dream	dream には「心に描く夢」や「実現させたい理想」という意味があるそうなので、「夢に向かってなわたんで学ぶ」「理想の人間、保育者になる」という思いを込めて
なわて human	なわたんが目指しているなわたん生としての自覚をもってもらい、方針通りの人になってほしいと願う
nawate colours	四條畷学園らしい色に染まった素敵な人になれるように
その他 (キャッチフレーズ)	みんなが進もう、将来の道へ進めー！素晴らしい先生に！ なわて学生ならやればできる できないができるようになる、個性溢れる保育学生

このような学生のアイデアとあわせ四十数個の候補があがり、2回目の検討会では呼称の絞り込みを行い、検討の結果、次の7候補に絞られた（表-6）。

最終会議では、「なわてジェンヌ」が現在定着しているため、パリジャン（仏語：parisien）をもじり「なわてジャン」を追加する形が分かりやすいのではないかという提案もあったが、社会的にLGBT等が問題提起されているように呼称についてはジェンダーレスにし、学生一人一人の多様性を尊重できるような、全く新しい呼称が良いのではないかという話し合いがなされ、採決の結果「なわたんスタイル」に決定した。

表-6 「なわてジェンヌ」新呼称7候補

なわてジェンヌ+なわてジャン
なわたんスタイル
なわてイズム(NAWATIZM)
nawate dream
なわて Junesse
なわて Etoile
nawate colours

Ⅳ まとめ

「なわてジェンヌ」を合言葉に、N J 3に教員の学生へ思いを込め検討されてきた時期は、おおよそ2005年前後である。2005年に在籍し現在も勤務している教員は、学科長と2名の教員である。2021（令和3）年現在、専任教員は10名であるが、図-8に示す通り、ここ10年で半数の教員異動があった。今回の検討は、教育の継承という意味で意義があったと考える。N J 3を立ち上げに携わってきている教員が当時の資料を探し、当時の様子を話してもらい、紀要報告としてまとめたが、執筆を通し感じたことは、これまで保育学科で大切にしてきたことを教員同士の中で伝え、受け継ぎ、今の指導を考えることがどれほど大切かということ、まさしく温故知新である。

保育学科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）「建学の精神」「報恩感謝」ならびに教育理念「人をつくる」に基づいた人間力を身につけ、保育学科の教育目的、教育目標に至り、教育課程に

掲げる学修成果を達成し、所定の単位を取得して卒業要件を満たした者に短期大学士（保育学）の学位を与える。」に基づき、教育目的：豊かな人間性と専門性をもつ保育者、教育者を養成することとし、以下、3つの教育目標（1. 現代社会や地域の多様なニーズに対応できる専門的知識と技能を習得し、それらを実践する力を持った質の高い保育者、教育者を養成する。2. 子どもに豊かな情操を育むことができる技能と感性を備えた保育者、教育者を養成する。3. 礼儀、礼節を重んじ、社会人として深い教養を身につけた人間性豊かでコミュニケーション力のある保育者、教育者を養成する。）を掲げ、教育活動に取り組んでいる。

その教育活動の中でも、本報告は、「N J 3」「なわてジェンヌ」を中心に、これまでの実践を振り返りこれからの保育学科の教育の充実へとつなげることを願い取り組んだ内容である。

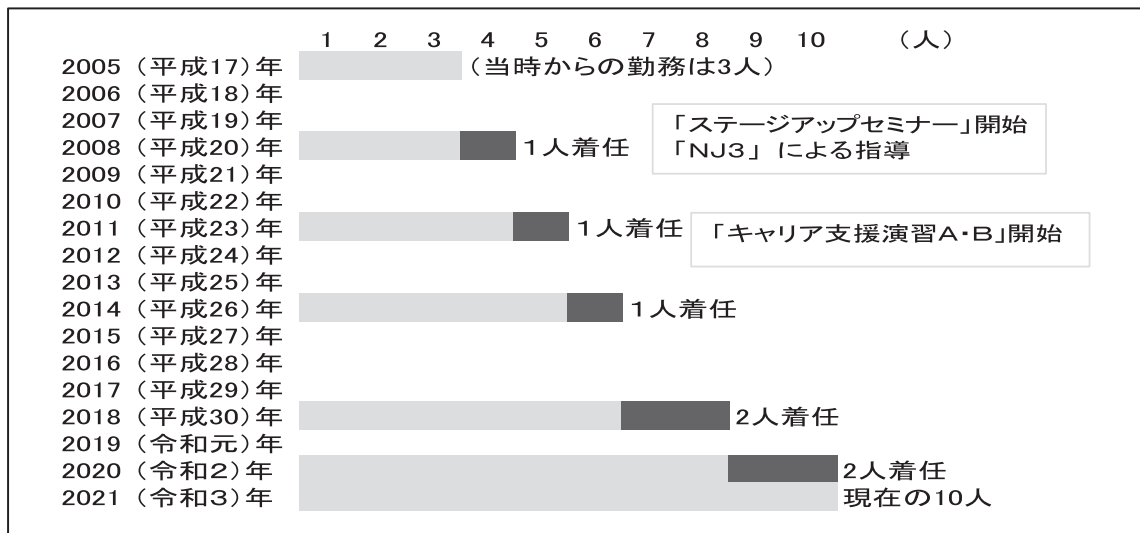


図-8 教員の着任時期と指導時期

文部科学省¹⁾は、個々の教員が個別に教育活動に取り組むのではなく、校長のリーダーシップの下、学校のマネジメントを強化し、組織として教育活動に取り組む体制を創り上げるとともに、必要な指導体制による「チームとしての学校」を教職員一人一人が、自らの専門性を発揮するとともに、専門スタッフ等の参画を得て、課題の解決に求められる専門性や経験を補い、子供たちの教育活動を充実していくことが期待できると述べている。

現在、保育学科は、男女ともに5人ずつで10名の教員が在籍しているが、メンバーシップのあるそれぞれの教員が互いに切磋琢磨しながら、各々の専門分野をベースとしてミッションである保育者養成に、教員全員で取り組んでいる。授業をはじめ講座やセミナー、研究活動等を通じて全力を注いで連携し協力し合って、人間性豊かで教養があり、かつ保育実践力を身につけた素敵な保育者として養成していくことは、今後も不変である。

2022年度からは「なわたんスタイル」を合言葉に、学生・教員が一丸となって「すてきな保育者」を目指すことになるのだが、四條畷学園建学の精神である「報恩感謝」やこれまで取り組んできた「NJ3」についても、押しつけ強要されるものではなく、学生生活、授業、実習、就職活動等さまざまな体験を通して学生自らが気づきを得て、心から行動できるように我々教員も積極的なサポートを行っていききたい。

「かわりゆくなわたん」に、コミットすることが出来るワクワクとした期待感と、身の引き締まるような責任感を同時に覚えるのは自分ひとりだけではないと確信しているが、短大をあげて全教職員で、新しいなわたんを創っていく仲間として男子学生をホスピタリティ精神で迎えていきたい。

参考資料

- 1) 「チームとしての学校」が求められる背景：文部科学省 (mext.go.jp) 2021年11月15日閲覧

－2021.11.25受稿、2021.11.26受理－